思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫

~特別支援教育の視点を生かして~ (3年計画の1年次)

校長 管 宏

1 研究主題について

昨年度は、「見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成」を研究主題、「特別支援教育の視点を生かして」を副題として、全職員が「授業のユニバーサルデザイン」の内容を共通理解し、研修・実践を行った。その結果として、どの教科でも安心して授業に臨み、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて取り組ませることができた。また、グループ学習やペア学習等での話合い活動に積極的に取り組ませることで、個々の意見がグループや学級の中で共有され、理解が深まり、課題解決に向けて主体的に学ぶ生徒が育成されるのではないかと考えたが、コロナ禍で話合い活動を自粛せざるを得ない状況であったため、一人一台端末を活用しながら、課題解決に向けて主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、研修を進めた。学力調査等の結果から、思考力・判断力・表現力に課題があると思われる。そこで今年度は、生徒自ら考え、得た情報を適切に判断し、説明できるよう、各教科で思考力・判断力・表現力を高めるため、授業デザインの工夫に取組み、研修を進めていきたい。さらに、一人一台端末の活用については道半ばであるため、効果的な活用の仕方をさらに研修していきたいと考え研究主題を設定した。

2 研究のねらい

各教科・領域の特性を生かしながら、特別支援教育の視点を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることによって、主体的に学ぼうとする意欲が高まり、思考力・判断力・表現力が高まることにつながることを明らかにする。

3 研究仮説

授業における適切な支援を「①見やすい板書・構造化された板書、②ねらいや授業の見通しの明確化、③目で見てわかる手がかりの活用」の三つに絞ることにより、全職員が共有し、実践してきた。これまでの取組を継続して授業の実践研究を続けるとともに、今年度はさらに、生徒自らが探究し、互いの考えを伝え合う活動等を取り入れながら、デジタル教科書や ICT 機器を活用することによって、思考力・判断力・表現力を高めることができる。

4 研究内容

- (1) 「授業のユニバーサルデザイン」について研修し、具体的な取組について共通理解をする。
- (2) ICT 機器の活用を通した授業実践と、互いの実践について学び合うための授業参観や研究協議を 行う。
- (3) 生徒理解や授業改善のために、外部講師(八戸学院短期大学野口和也氏)をお招きし、研修する。

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

(1) 例如於1010年 / (次次例)			
月	日	授業・全体会等	
7	4~	授業参観週間	
1 0	1 3	教育指導課・センター計画訪問	
各学期		思考力、判断力、表現力を高める授業の実践 ユニバーサルデザインの授業実践	
1 1	1 3	初任者研修 教科研究授業(保健体育) 授業者 根城将貴教諭 「バレーボール」	
1	2 7	初任者研修 道徳研究授業 授業者 根城将貴教諭 「親友」 〈内容項目 B-(8) 友情、信賴〉	
2	1 5	まとめと次年度の方針	

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	2	校内研修 「思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫」の共通理解
7	2 0	校内研修(スクリーニングと生徒理解)
9	6	「特別支援教育の視点での専門家によるスクリーニングと担当教員への指導・助言」
9	2 8	講師:八戸学院大学短期大学部教授野口和也氏
8	2 2	校内研修 「特別な支援を必要とする子どもたちへの指導について」 講師:佐藤佳子教諭
1 0	1 3	校内研修 「一人一台端末の活用について」 講師:八戸市総合教育センター 主任指導主事 石井 一二三 氏

6 研究の成果

(1) 授業のユニバーサルデザイン

今年度は、校内研究主題「思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫」〜特別支援教育の視点を生かして〜の1年次として授業実践に取り組んだ。各教科で思考力・判断力・表現力について確認し、それぞれの力を伸ばすための手立てを考え実践した。また、デジタル教科書、ICT機器を授業で活用し、授業のユニバーサルデザイン化を工夫した。

(2) 一人一台端末の活用を通した授業実践

出前講座「一人一台端末の活用」ではスプレットシートやジャムボードの活用場面や活用方法を研修した。また、実物投影機やデジタル教科書を合わせて使う方法など、より実践的な活用方法を学び、授業実践に取り組むことができた。さらに、家庭学習としてeライブラリーを利用したり、様々なアンケートにも使用されたりと、効果的なタブレット活用の可能性が確認できた。

(3) 特別支援教育の視点を生かした生徒理解や授業改善

夏休みの研修では、特別な支援を要する生徒の特性を理解し、授業のユニバーサルデザインにどのようにつなげていくかについて、理解を深めることができた。さらに、八戸学院大学短期大学部の野口先生をお招きし、生徒の授業や学級での様子を参観していただき、今後の指導方法や関わり方について具体的にアドバイスをいただいたことで、生徒理解や授業改善に生かすことができた。

7 研究の課題

- (1) 各教科で思考力・判断力・表現力とは何か、それぞれの力を高めるための手立てはどのようなものかを考え実践したが、思考力・判断力・表現力を高めるためには、土台となる基礎学力の定着が必要となる。基礎学力の定着を図りつつ、思考力等を高めるための手立てを加えていかなければならないと考えられる。
- (2) 今年度、授業配信が日常的に行われるようになってきたが、黒板全面を一度に写すことができないため、授業がスムーズに流れないことがあった。場面の切り替えを円滑に行えるような機器の準備が必要である。また、タブレット端末の家庭への持ち帰りが実施され、生徒にとってタブレットの活用は日常的なものとなっているが、使用・管理の仕方について約束事が徹底されず、家庭や休み時間の使い方や、授業中の使用についてモラルの欠如が見られ、今後の指導方法に課題が残った。
- (3) 「ユニバーサルデザイン」の内容から、十分に取り組めなかった内容項目にも力を入れていく必要がある。特別支援教育に対する意識をさらに向上させ、支援を必要とする生徒の困り感に寄り添いながら、授業改善・生徒理解を深めていきたい。さらに、つまずきへの支援を工夫する一方で、理解が早い生徒への知的好奇心を満たす手立ても考えていく必要がある。

(記入者 奥寺美都子)